

平成 29 年度「第 2 回ケアラーサポーター育成研修」開催報告 地域に学び、地域でささえる～ケアラーを孤立させないために～

【日時】平成 29 年 10 月 18 日(水)16:10～17:40

【場所】長崎大学文教キャンパス 環境科学部 1 階 A13 教室

【講師】岩月 万季代 氏 (NPO 法人てとりん 代表理事)

平成 29 年 10 月 18 日(水)、長崎大学文教キャンパスにて、「第 2 回ケアラーサポーター育成研修」を開催いたしました。当日は、学内外から 30 名の参加がありました。



講義「介護者を地域でささえる」

岩月先生は、冒頭に、「自身が親の介護を経験し、その時の悩みや苦労を活かし始まった NPO 法人てとりんは、家族介護者(無償の介護を行う親族)等が社会から孤立しがちな現状を改善し、人々のつながりが輪となり、地域で支え合える街づくりの実現を目的に活動している」と述べられました。愛知県は喫茶文化があり、年齢に関係なくモーニングやランチを外で食べる習慣があることを活用し、てとりんハウスでは飲食の提供をすることで近隣住民など誰もが利用できる場所としている。常設の交流の場や居場所を作り、介護中の息抜きや相談、要介護者と家族の外出先・外食先、情報提供や直接的な支援や介護者の健康チェックを実施していると話されました。家族介護者は毎日悩みながら、困りごとを抱えながら生活しているが、それをケアマネジャーや行政担当者に毎日聞くことはできない。それをいつでも聞くことができる場所として「てとりんハウス」があり、これが常設の強みであると述べられました。常設での介護者支援の場は、全国では「てとりんハウス」1 か所のみであり、収益の上がらない介護者支援はなかなか広がらず、運営は難しいが必要であることを強調されました。

国の施策である地域包括ケアシステムでは、医療・介護・地域の連携を示しているが、介護者の存在は示されていない。今後どのように変化していくかわからないが、介護者自身が人生を自分のものとして生きていくために、孤立感の解消や介護負担の軽減、精神的自立等の支援が必要であることも話されました。

家族介護者が、自身の健康状態を後回しにして介護をしている現状を多く見てきたことをあげ、要介護者の状態により介護者の生活や状況も大きく変化するが、介護者へ焦点を当てた支援等は未だない現状を繰り返し述べられました。最後に、実際に起こっている介護殺人についての VTR を放映し、悲惨な状況を未然に防ぐことが何より重要であり、自分たちに何ができるのか、地域をどう巻き込んでいくのか、行政をどう動かしていけるのか考える機会にしてほしいと締めくくりました。





第2回ケアラーサポーター育成研修には、多くのみなさまにご参加いただきました。センタースタッフ一同、心よりお礼申し上げます。アンケートでは「全国の先駆けで、家族介護者支援を行っており、志がとても伝わってきた」「介護者の思い等の深意を知る必要と、地域のつながりが大切であることを学びました」「介護経験者の一人として自分にできることを考えていきたい」「てとりんは、皆さんの熱い思いがあつての活動だと感じました。長崎にも同じような場ができてほしい」「とても考えさせられる内容でした」など、多くの意見やコメントがありました。アンケートへご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。

長崎大学ダイバーシティ推進センターは、今後も引き続きケアラーサポーター育成研修を開催します。今後ますます介護の課題を抱える人が増加することが確実視されているなか、介護者が孤立することなく介護者も要介護者も共に社会参加ができるよう、地域のみなさまととも取り組んでまいります。